

## 2023.1.14 とと道トレイルウォーク（笠岡-美星）フォト報告

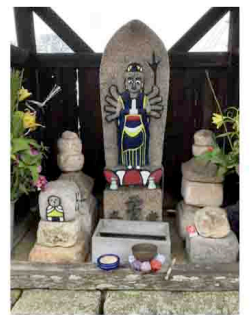
あけましておめでとうございます。2022年度2回目の「とと道トレイルウォーク」が2023.1.14(土) 笠岡・金浦-美星・三山のコースで開催されました。冬というのに大雨の予報、実施するかどうか大いに悩みました。しかし、魚仲仕たちは天候にかかわらず注文があれば40kgもの鮮魚を担いで歩いていただんたと思いきや実施しました。

当日朝は正に大雨。さすがに2名のキャンセルがありました。雨もコロナもものともしない50-88歳の30名の方が参加されました。雨は昼前から小やみになり、午後は曇り空ながら汗ばむほどで快適に歩け、笠岡の海辺から美星の高原までを完歩しました。（8:40発・15:10着）。

8:30 笠岡の金浦で傘をさして出発式実施。浜の住吉神社を参拝後バスで出発。途中、昨年秋に増補改訂されたガイドブックのおかげで吉浜の干拓地の由来の説明等かなり深い紹介ができました。本の販売セールスもさせていただきました。



山陽自動車道の下では橋脚の耐震工事が行われていて大量の岩や土が掘り出され、とと道ルートが埋没しかねない状態でした。ところが、何とルート脇の残土置場との境に柵を設置、トト道の方まで残土があふれない様に整備されていました。しかも警備の方がお出迎えして下さり、そのご配慮に感激しました。



助実貝塚

助実の聖地では今でも毎晩地域の方々が灯明を灯しているという常夜灯に感嘆。その前の観音様は今年は黒っぽい色彩の彩色が施されていました。色代えは毎年お盆の頃にされるとのこと。そしてお盆には大口踊り、松山踊り、水替え踊り（湯水の折に水を桶で運んだ）の3つの踊りが踊られるとか。

100年前、4千年前の縄文時代の人骨が出たという助実貝塚に寄り道。この高台のすぐ下が海だったとの説明に納得。



助実から北に下り県道の手前で吉田川を渡ります。4千年前にはそのすぐ下流まで海だったとのこと。



助実の次はときわヴィレッジからのとと道遺構歩き。鳥インフルのせいで、途中の養鶏場には石灰がびっしりと撒かれてまるで雪景色。



どんぐり球場の崖の手前で従来は右に曲がっていましたが昨年の秋に笠岡市のご了解を得て、左側の斜面にとと道遺構を再開発。まっすぐ斜面を下るルートができました。今回がウォーカーの皆さんへの初めてのお披露目でした

ききな峠ではその先の長福寺裏山古墳を見たいとの希望がありました。今回ルートには入っていませんが折角の機会なので次回は是非寄りたいたいです。



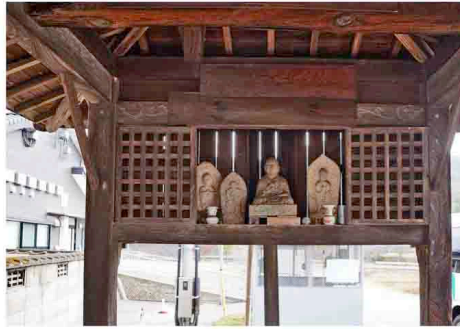
ききな峠からバスに乗り、甲弩の水田地帯を越えて小田川に到着。折から雨が上がり、安倍山系の中腹に見事な雲がたなびいていました。



小田の市街の有名なとと道迷路。三海歯科の隣の小路はしっかりセメントで舗装されていました。高架道路の下には古い縄ない機械がありました。とと道再開発のきっかけを作っていたD氏が一行をお迎えに出てこられました。お元気そうでした。



市街を北に抜けた後、今回の新コースとして江戸時代の壕の石組みが見られる場所を通過して県道に出て、郡宮址の石碑を訪れました。奈良時代、この一帯は小田郡の行政の中心地だったと言われていています。昨年秋に、ここから1kmほど東にある古代山陽道の駅屋（うまや）跡から千年以上前の建物の木製の建築部材が発掘されました。小田郡の迎賓館ではなかったか？今後の本格発掘が待たれます。



小田市街から北へ向かい小田小学校手前の御堂と牛供養碑を参拝。供養碑に彫られた「なりハ、三山、高粱」などというのと道の方向を示す文字を確認しました。



海から20kmほどの日置谷の公会堂あたりから吉備高原の斜面が始ります。つい昨年までは水田の中のあぜ道でしたが一部が立派な舗装道路になりました。雨が上がり、遠くに形の良い鳶山がみえます。昔から有事の際にはこの山で烽火があげられていたと言われます。



宇内のホテル公園で昼食の後いよいよ美星の高原へ登る急坂が始ります。とと道は川面88観音めぐりの参拝道と重なり、途中40から45番までの霊場を通ります。



とと道の場所の特定の鍵となったまぼろしの県道です。再開発当時は深い藪で登るも下るもできなかったのですが今では往時と同じ歩きやすい道となり、下の入口から上の出口まで30分ほどで登れます。最高齢のK氏もスタスタと元気一杯に登りきりました。



まぼろしの県道を登りきった所に、このルートがとど道だと確証を与えてくれた道標が有ります。毛野の二股道標と呼んでいます。そしてその先にも成羽を示すもうひとつの道標が有ります。

百万遍念仏塔前で記念撮影



一帯は美星のゆるやかに起伏する高原地帯になります。



おいしいアイスクリームで評判の徳山牧場の脇を進んで行きます。



毛野の二股道標に続き四方位道標、吹谷の刻字が特徴の布東の道標と往時のものが次々に現れます。



美星はとと道全行程の中程の位置にあり、成羽以外の地への分岐点でもあります。

そのためかつては5ヶ所ほどの運送の仲継ぎ場がありました。また、笠岡や下津井の魚の生産地と吹屋にある問屋との間をとりもつ仲士問屋というものもあったそうです。

布東の公会堂の庭には320年以上前の元禄10年に建てられた道標もあります。

とと道とは単なる道ではなく、そこを辿った人々の生活の営為も見せてくれる「時の街道」とでも呼べる不思議な道であることが実感されました。

ここからバスで三山に出て本日のウォークは3時10分に無事終了しました。



2023.1.14 笠岡→美星・美山 行動実績			
2023.1.14 笠岡→三山 行動実績		モード	分
850	笠岡金浦 久我邸前発	バス	10
900	大河東橋	ウォーク	40
920	助実		
940	大戸口バス停前	バス+見学	20
1010	ときわヴィレッジ入口	ウォーク	40
1050	ききな峠	バス	20
1110	小田市街入口	ウォーク	20
1130	郡宮址石碑	バス	10
1140	日置谷公会堂	ウォーク	20
1200	羽賀池前	バス	10
1210	宇内ホテル公園・昼食	バス	10
1240	川面88観音40番参道	ウォーク	80
1320	まぼろしの県道入口		
1350	毛野の二股道標		
1400	百万遍念仏塔	バス	5
1405	三膜分岐入口	ウォーク	50
1435	四方位道標		
1455	布東公会堂		
1500	三山八幡神社	バス	5
1510	美星青空市場	バス	
1530	復路発		
		バス計	1:15
		ウォーク計	4:10